

## 「黒田チカ没後50周年 黒田チカを語る会」報告書

去る2018年11月8日(木)14時より16時まで、佐賀市大運寺において、「黒田チカ没後50周年 黒田チカを語る会」が行われました。黒田チカ先生は佐賀市松原にお生まれになり、我が国で初の帝国大学の女子学生となった後、我が国で二番目の博士号を取得し、男女共同参画の先駆的な活動を行っただけでなく、また明治維新後の我が国の化学黎明期に色素の化学構造決定という化学の分野でも先駆的な研究を行った化学者です。黒田チカ先生に縁のある御親類、御友人やその関係者、佐賀大学関係者が集まり、先生の思い出にまつわるお話をしました。1番目は佐賀大学の名誉教授であり、黒田先生のお茶の水大学時代に黒田先生を慕って上京した方です。学生時代に自宅のように先生のお宅を訪問させていただいたというエピソードを語られました。2番目はこの会の企画者であり、長年にわたって黒田先生をお慕いしている佐賀大学理工学部機能物質化学科の元教員であり、現佐賀化学フロンティアの会長でもある堀勇治先生にお話しいただきました。堀先生は黒田チカ先生を尊敬してやまない本会の企画者であり、その思いを語られましたが、ついに最後までご本人にお目にかかることができなかったことを語られました。3番目は郷土史家であり、「世界を見ていた佐賀の人」や「佐賀に縁ある女たち」の展示企画をされた末岡暁美様より、黒田チカ先生の偉大さが語られました。黒田先生の女性で我が国で二番目の博士号取得は第1号である保井様がアメリカ留学によってなされたことを紹介され、参加者一同、やはり黒田先生はすごかったんだと大きくうなずく場面がありました。4番目は佐星醤油社長の吉村誠様よりお話がありました。黒田先生の実兄である吉村吉郎様は当時の穀物商である吉村商会を立ち上げ、現在の佐星醤油へと展開していくことが紹介された。また、吉村吉郎様は感光紙を利用した保険代理店も営み、リコーの創業者である市村清氏に大きく影響を与えたことが説明されました。5番目は佐賀市文化会館前館長であった大島公子様よりプラザ7月号が紹介され、ゆかりの人と縁があること、継承することの大事さを語られました。6番目は宮島醤油社長である宮島清一様がお話をされました。冒頭、堀先生の方から宮島醤油のWebサイトで黒田先生の紹介がなされ、かなり熟知しているはずの自分よりも多い情報が掲載されていて驚いたことが紹介されました。10年前になくなられた奥様が黒田先生と同門のお茶の水大学出身であったことから、大学に寄付を行ったところ、奥様の名前の冠がついた奨学金制度となり、黒田先生と同じように取り扱われたことが嬉しかったことなどが述べられました。7番目は佐賀大学からの代表者として大渡が話をさせていただきました。51才であり故人のことはもちろん存じ上げないものの、佐賀大学生としてその継承者である堀先生に話を伺い、主に堀先生についての思い出を紹介いたしました。8番目には九工研ご出身の有田せいじ様が黒田様とのご縁について語られました。9番目には佐賀大学前前学部長であった渡辺啓一先生より、佐賀コスメティックバレエ構想の一環として紫根を栽培しようとしていた折、関係者から何故佐賀で栽培なのか、等質問に明確な回答ができなかったところ、紫根の構造解明に黒田先生が関与し、佐賀への架け橋となってくれたと説明されました。10番目には呉服屋を営まれる南里様が紫根は高価であったため、着物には使えず、帯にほんの少しだけ使用されたことが紹介されました。11番目には参加学

生の代表として林実樹さんが繋ぐことの大事さがよく分かり、次の代にも語っていくと誓いました。12番目と13番目に黒田先生のご子息である黒田研二様と黒田光太郎様よりご挨拶と共に、思い出話が語られました。黒田光太郎様は何故、黒田先生が東京に上京したのか、当時どのように上京したのかについて、今でも情報を得たいと語られておりました。最後に、大運寺の和尚様よりご挨拶がありました。終了後、佐賀大学の教員と学生でお墓のお参りを行いました。

佐賀大学理工学部化学系教員として職務に全うされた堀勇治先生の見事な演出でした。

(大渡)



実行委員長の堀先生の挨拶



黒田チカ先生のお墓の前で